

棚田学会

第21回談話会 「棚田と文化」

日時 2010年12月18日(土)14:30~16:30 (受付 14:00より)
場所 会場は都合により環境棟7階から環境棟6階に変更します。
東京大学柏キャンパス 環境棟6階 講義室 (裏面案内図をご参照ください)

講演① 棚田を支える無形のわざ — 無形文化遺産について
講演者 齊藤 裕嗣 氏 (文化庁 伝統文化課 芸能部門)



早稲田大学卒業後、昭和55(1980)年から国立劇場調査養成部資料課に勤務。昭和58(1983)年に文化庁に移動。以後、文化財保護法による無形文化財(伝統芸能)、無形民俗文化財(民俗芸能)、文化財保存技術(伝統芸能・民俗芸能関係)の調査や指定など保存と継承に関する業務を担当して現在に至る。

講演概要

日本各地の棚田のなかには、文化財保護法による「文化的景観」として選定、あるいは「重要文化的景観」として指定され、保護が図られているものがある。

文化財保護法では、文化的景観のように、人々の生活や生業、風土によって形成された「もの」に加えて、現在の人々によって表現される、いわゆる「わざ」についても保護がはかられている。近年、ユネスコの「無形文化遺産の保護に関する条約」によって国際的な保護の動きも活発になってきた。

あらためて「わざ」に対する文化財保護法による保護の考え方などを紹介する。

講演② 団塊世代の棚田保全
講演者 高橋 啓一 氏 (NPO 法人西条加茂蕎麦くらぶ 理事長)
(代理講演: 山路 永司氏 / 東京大学教授・棚田学会理事)



1948年西条市生まれ。祭りで育ち、水路で遊び、5つあった映画館で夢を見た幼年時代。1966年県外就職するも、数ヶ月後、市に松下電器が進出したのを機に、躊躇せず帰郷転職。仕事の厳しさ、お客様の大切さを身をもって体験。社内を転職し、51歳で会社人間から社会に飛び出す。その後(株)西条産業情報支援センターに職を得て市内を巡る。余りにも変わり果てた故郷を知り、森林ボランティア「石鎚水源の森くらぶ」に参加。2006年、加茂蕎麦くらぶをスタートさせる。

講演概要

この活動は2002年に中山間部の不耕作農地を借り、蕎麦づくりからスタートした。2004年四国地方を襲った台風で蕎麦畑が土石流に飲み込まれたのを契機に、ただ楽しむだけではダメで、きちんとした組織を作ろうという合意に至り、チームワークが一気に集約された。2006年6月「西条加茂蕎麦くらぶ」と改称、広い広報活動とともに、棚田の自然観察・環境学習も含め、さまざまな活動を行っている。活動の拠点は、400年前から先人が一枚一枚積み重ねてきた広大な石積みの棚田群・西条市加茂地区千町である。

今後の課題は、この魅力あふれる故郷を外部に発信すること。四国は地域別人口では日本の最下位であるが、その人口構成の一番多い団塊世代が「発端」を生み出さなければ、益々過疎の四国になってしまうことは明確である。



重要無形民俗文化財「高原の神舞」(宮崎県高原町)

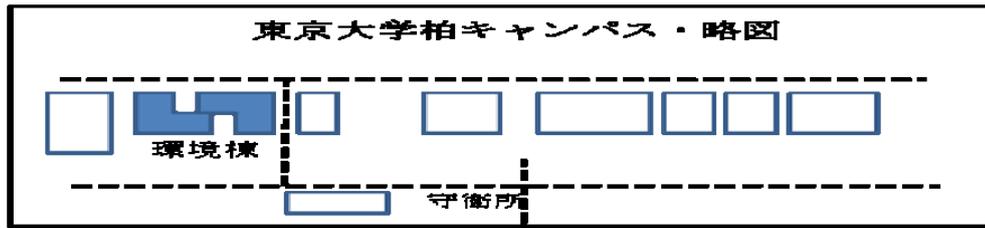


NPO 法人西条加茂蕎麦くらぶの活動

参加費 棚田学会員、学生は無料、一般参加者は資料代:500円

忘年会 17:00~19:00 (同キャンパスにて 参加費:3000円)

会場案内 JR常磐線・東武野田線「柏駅西口」から国立がんセンター行きバス25分「東大前」下車
つくばエクスプレス(TX)「柏の葉キャンパス駅西口」から江戸川台駅行きバス10分「東大前」下車
東武野田線「江戸川台駅東口」から柏の葉キャンパス駅西口行きバス10分「東大前」下車
(詳しくは<http://www.k.u-tokyo.ac.jp/renewal/access/>)



江戸川台駅方面

東大前バス停

東大前バス停

柏駅、柏の葉キャンパス駅方面

お問い合わせ 棚田学会事務局 〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8
東京農工大学農学部地域生態システム学科千賀研究室
E-mail: tanadagattukai@yahoo.co.jp FAX: 042-336-1299

参加申し込み 氏名、連絡先を明記のうえ、はがき、E-mail または下記 FAX でお申し込みください。

談話会参加申し込み

談話会 忘年会

(ご希望のところにレ印をお付けください)

名前 _____ 会員 学生 一般

連絡先 〒 _____

TEL _____ FAX _____

E-mail _____